

国際交流研究科 2年

留学先：ドイツ・デュッセルドルフ大学

留学先：2023年4月~2024年2月

ドイツの政治や歴史に関心があり、この分野についての資料を集めること、現地の学生と話せるようになることを目標に留学を決意しました。この目標は、アーカイブセンターへ行ったり色々な友人を作ったりすることで達成できました。語学力の面で留学前は様々な不安がありましたが、言語には自然と慣れていったように感じています。まだまだ勉強が必要ですが、ドイツ語を通じてたくさんの方と交流できたことをとても嬉しく思います。

また、留学中はドイツだけでなくいろいろな国を旅行しました。特に印象に残っているのは、ポーランドです。当たり前のことですが、同じヨーロッパでも国や地域によって全然違う文化を持ち暮らしていることが印象的でした。色々な場所へ実際に行ってみることはとても大切な経験になると感じました。

最も大きな経験だったと感じていることは、日本語学校のボランティア活動に参加したことです。もともと日本語教育に興味があったというわけではなく、ドイツで知り合った日本人の友人の勧めで日本語学校の存在を知り、校長先生との簡単な面接を経て参加することになりました。教員は日本語話者であることが必須条件ですが、教育方針はドイツのやり方に沿って「個」を大切にすることを重視していました。この学校に通っている子どもたちは幼稚園生から中学生までと年齢はバラバラで、全体で30人ぐらいでした。私は主に小学校低学年の子を担当し、一緒にひらがなやカタカナを勉強しました。ボランティアだけの短い時間でしたが、自分の言動が子どもたちにいかに大きな影響を与え得るのかについて考えたり、教育が政治と密接に結び付いていることを実感したりしました。授業中、子どもたちは受け身ではなく常に自由に意見を述べることができます。これは大学の講義でも同じでした。学生たちは様々なテーマについて必ず自分の意見を持っていて議論することを好みます。私は最後までこの文化に慣れることができなかつたことから、教育は人と社会との関わり方を教えてくれる場であることを強く感じました。日本語学校の授業中は日本語だけ話すことができますが、休み時間には子どもたちからドイツ語を教えてもらいました。大人とドイツ語を話す際は、文法が間違っていたり発音がおかしかったりしてもコミュニケーションが取れていれば何も指摘されませんが、子どもたちは細かいミスでも注意してくれるので、ドイツ語という面でもとても学びの多い時間を過ごせました。

